

第Ⅲ章 各園における実践事例

本章に掲載している実践事例は、下記の様式に沿って各園の実践をまとめていただいたものです。

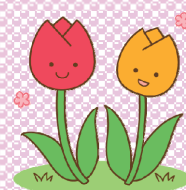
1 実践事例について

実践事例の見方

() 歳児 実践事例	() 活動名	() 月
視点 ()	視点 () ~ ()	
【遊びの経過】 ※この活動の視点に即した子どもの様子を書いています。	【ねらい】 ※視点に沿ったねらいを書いています。 心情・意欲・態度面の育成をねらい、「～できる。～知る。」というような技能や理解の向上を図るものではありません。	
【評価】 ← 保育を評価するポイント、評価の観点を記入しています。 ※どんな行動や言葉が見られれば、ねらいを達成していると言えるのか、具体的な子どもの姿を書きます。		
【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】		
★ 子どもの言葉・思い 【見取りの視点・キーワード】 子どもの具体的な姿・育ちつつある心情・意欲・態度を書きます。		
どうやったら○○ちゃんみたいにできるのかな。 【疑問】【探究心】 写真 ■保育者の援助 ★環境の構成 ※ねらいにせまるための援助や構成を焦点化して書きます。		
【吹き出し】には、 ①実際に子どもが発した言葉 ②子どもの表情や姿などから、保育者がねらいにつながると考える子どもの思いや言葉を記入しています。 *それぞれ、文字の色を分けたり、吹き出しの形を変えたりすることもできます。		
【考察】 ← 保育の内容等の振り返り、及びこれに基づく改善点を記入しています。 ※【ねらい】【評価】に対する子どもたちの様子、それを受けてどう環境の再構成や援助を行うのか、次回の活動へ発展させる際の留意点等を記入します。		

- 1つの遊び・活動を通して、子どもたちは頭と心と体を働かせながら、様々な資質・能力を身に付けていきます。また、子どもたちの諸能力は、それぞれ単独で発達するのではなく、相互に関連し合いながら総合的に発達していくものです。保育者は、遊びを通して子どもが発達していく様々な姿を総合的にとらえるとともに、そのために必要な経験が得られるような状況を作ることを大切にしなければなりません。

このように考えると、活動のねらいを1つに絞って実践事例を作成していることは矛盾しているように感じられるかもしれません。もちろん、その活動から期待できるたくさんの子どもの姿を予想し、一人一人の子どもについて見取り、評価していくことは大切です。しかし実際には、ねらいが曖昧なままで子どもまかせの活動に陥ってしまい、どのような力が育ったのか見取るのが難しいという現状もあります。



- そこで、「視点」を絞って実践事例を書くことをすすめています。そのことが、ねらいに基づき、「子どもの姿」や「保育者の援助」、「環境の構成」等について振り返ることになり、保育者がねらいを達成するために何をしたのか、どうすべきだったのか、今後どのようにしていくのかなどについて考察し、実践することになるからです。そのことにより、結果的に様々な子どもの育ちや学びを見取る力を保育者がつけることにつながると考えています。



実際に、実践事例を作成している多くの園から、「主なねらいを絞って子どもの姿を見取ることを意識して保育を行っていたら、子どものいろいろな姿がよく見えるようになった。」「子どもの多様な姿に合わせ、指導や援助も適切で具体的なものになってきた。」という声をいただいています。

- 実践事例を作成することによって、意図的に行っていた援助・環境構成についての振り返りや子どもの見取り等がより確かなものとなります。また、意識しないで行った援助等についても考えることになり、それまでは気付かなかった子どもの姿や自分の指導の課題などを多角的に反省・評価していくことにつながると考えています。

保育者が総合的な指導をする力を発揮するためには、子ども一人一人の発達段階と個別の状況に応じて計画的・具体的に保育を構想し、実践する力が求められます。

本章で掲載している実践事例を参考に、自園の記録や指導のあり方を考え、子どもの実態や地域の特色などを考慮した自園ならではの実践を展開していきましょう。

2 各園の実践事例

(1) 0歳児

0歳児 実践事例

好きなおもちゃであそぼう

(10月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

保育者や友達のしている遊びに興味をもち、同じ動きを模倣したり、同じおもちゃで遊んだりする姿も見られるようになった。保育者が仲立ちをすると、「どうぞ。」「ありがとう。」などのしぐさをしてかわりを喜んでる。

【ねらい】

好きなおもちゃで遊んだり、保育者や友達の真似をしたりして遊びを楽しむ。

【評価】

- ・自分の好きなおもちゃを見つけ、思い思いに遊びを楽しんでいる。
- ・保育者や友達のしている遊びを見たり、やってみようとしたり、真似をしようとしたりしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★落ち着いた遊びが楽しめるよう、見やすく手が届きやすい場所に遊びのコーナーを設定する。

〇自分の好きな遊びを楽しむ。

いない、いない
ばあ。出てきた。
【驚き】【好奇心】

おもしろいなあ。
【好奇心】【興味・関心】



楽しそうだな。
【興味・関心】
【好奇心】

■一人一人が自分の好きな遊びをゆったりと楽しめるよう見守りながら、楽しい気持ちに共感したり、指さしや表情から思いを受け止めたりするとともに、子どもの思いを言葉にして伝えるようにする。

〇友だちのしていることを真似て遊ぶ。

何だろう。【疑問】

何だか楽しそう。
【期待感】【好奇心】



はい、どうぞ。
【人とのかかわり】

■好きな遊びを楽しみながら、自然に友達とのかかわりがもてるよう声掛けをし、仲立ちをしていく。
■友達の持っているものが、気になって、取り合いになる時は、お互いの気持ちをくみ取りながら声掛けをして気持ちを満たしていけるよう関わる。

- ★保育者や友達がしている姿がよく見えるように大型の「ポットン落とし」を用意する。
- ★一人一人がやりたい遊びを楽しめるようにおもちゃを十分に用意する。

入るかなあ。
【没頭】【思考】

よし。入った。
【満足感】



ぼくもしてみようかな。
【意欲】【模倣】

■保育者がポットン落としをして見せたり、友達の様子を知らせたりして、興味をもてるようにする。
■うまく穴に入らない子どもには、必要に応じて手を添えるなど、「できた。」という満足感が得られるようにする。
■「入ったね。楽しいね。」と楽しさを共感し、まわりの子どもにも知らせて興味・関心を広げていく。

【考察】

大好きな絵本の動物が出てくることを喜び、繰り返し紙をめくりに来たり、「ばあ。」と声を出しながらめくったりする姿があった。ままごとや「ポットン落とし」を見ているだけだった子どもも、友達がしているのを見て興味をもち始めた。「どうぞ。」「ありがとう。」など保育者や友達とのやりとりも楽しんでおり、一人遊びから人とのかかわりを楽しむ姿に変わってきた。子どもたちが安心して周囲に働きかける中で、友達と共に過ごすことの喜びを感じ、満足感を味わうことができるように、保育者は言動や表情を見守りながら適切な援助を工夫していきたい。

【遊びの経過】

はいはいや歩行が活発になってきたこの時期、保育室を出て園内探索を楽しんできた。さらに園外へ活動範囲を広げ、地域の公園へと出かけるようにしている。子どもたちは、広い場所で開放感を味わいながら、色々な場での探索や歩行を楽しんでいる。

【ねらい】

戸外で、自ら体を動かすことを喜ぶ。

【評価】

- ・公園内の色々な場所で、たくさん歩いたり、はいはいしたりして進んで体を動かすことを楽しんでいる。

【0幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★現地をあらかじめ下見し、動きや遊びの予測を立て、安全に遊べるように職員を配置する。

○公園内の遊具で遊ぶ。



よいしょっと。
【意欲】

上ってみよう。【チャレンジ】



がんばるぞ。
【意欲】

保育園のより大きいな。
【好奇心】

■自由に探索できるように全体を見る保育者、子どもの側で見守る保育者と役割を分担し、広い公園内や遊具で安全に遊べるようにする。

■傾斜や段差、遊具の高さなどのある所でも意欲的に挑戦する姿を認め、危険のないように見守るとともに、手を添えたり、体を支えたりするなど個々に合った援助をしていく。

★さらにたくさん歩いたり走ったりできるよう、隣接する広い芝生の方へ移動する。

○広い芝生の上で遊ぶ。

逃げろ逃げろ。
【安心感】【信頼感】

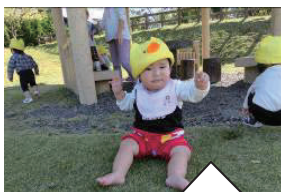
いっぱい歩くよ。
【意欲】【挑戦】



■遠くの景色や青空を子どもたちと一緒に眺め、心地よさを言葉で伝えることで、開放感を味わいながら自分から進んで体を動かせるようにする。

■はいはいや歩行、かけっこを楽しめるよう、一緒に体を動かしたり、「おいで。」と呼びかけたりして、たくさん活動できるようにする。

○東屋で休憩したり、遊んだりする。



いっぱい動いたな。
【達成感】

いないいない、ばあっ。
【多様な動き】



楽しいね。
【喜び】

■時間や子どもたちの様子を見て東屋に誘い、涼しい場所で心地よい風を感じたり、休憩をとったりできるようにする。

■かくれんぼや探索遊びを楽しめるよう声をかけたり、満足するまで一緒に遊んだりしていく。

■帰る支度へと誘いながら、たくさん遊んだ満足感を言葉にして伝える。

【考察】

運動遊具を使った室内遊びから廊下や階段、遊戯室へと活動の場を広げ、次の段階として戸外での活動を設定した。公園では、広い空間や大型すべり台、砂場など普段とはちがうものや場所にどんどん挑戦しようとする姿、広場ではどこまでも続く芝生の緑や空の青さ、心地よい風などを五感で味わい、のびのびと体を動かし遊ぶ姿や笑顔が多く見られた。このように自然の中でのびのびと体を動かして遊ぶことで体のいろいろな機能の発達が促される。保育者は、戸外の中でのびのびと子どもとの関心が戸外に向くような動線の見直しに努める必要がある。また、月齢差、体力などの個人差に配慮しながら、自ら喜んで心と体を動かそうとする意欲を育てていくために、組織的、計画的に日々取り組んでいきたい。

【遊びの経過】

天気の良い日は戸外遊びを楽しみ、芝生の上をはいはいや歩行などで移動することを楽しんでいる。また、園外にも出かけ自然事象を肌で感じたり、果物、植物、生き物に興味を示し、指さしをしたり、触ってみたりする姿も見られた。

【ねらい】

落ち葉の感触を楽しみながら、戸外で遊ぶ気持ちよさを味わう。

【評価】

・落ち葉の音や手触りの不思議さなど、落ち葉の感触を楽しみながら遊んでいる。

【0幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★子どもたちが安全に遊べるよう、落ち葉に混じっている危険物を取り除く。

★赤・黄・茶色など色とりどりの木の葉が十分にある場を確保する。

○落ち葉に興味を示す。

ひっぱってみよう。

【興味・関心】【没頭】

触ってみたいな。

【好奇心】【意欲】



破れたよ。

【発見】

かけてあげるね。

【人とのかわり】



■保育者も子どもたちと一緒に落ち葉に触れ、手触り、におい、色彩、音などに興味を持てるような声かけをし、知らせていく。

■落ち葉を口に入れないように、十分に気をつける。

■「どうぞ。」「ちょうだい。」など保育者が子どもの動き、思いを言葉に代え、友達との関わりを楽しめるようにする。

★落ち葉を入れる袋やバケツを準備する。

★友達とぶつかったりしないよう、十分な場所を確保する。

○落ち葉の感触を楽しみながら様々に遊ぶ。

投げてみよう。

【意欲】

やったあ。

できた。

【満足感】



ふんでみよう。【好奇心】



葉っぱ持ってきたよ。入れて。

【人とのかわり】



カサカサ音がしたよ。【発見】

動くとき音がするよ。【発見】
【興味・関心】



いいよ。【自己決定】【共有】

■走る、はいはいをする、寝転がる、投げるなど保育者も楽しみ、子どもの様々な動きを引き出せるようにする。

■遊びに入れない子どもには無理をしないようにし、そばで見守りながらそっと落ち葉を手渡し「カサカサ」「パリッ」など落ち葉の音や感触が感じられようにする。

■投げる、集める、ちぎるなど子どもたちが遊びを楽しんでいる姿に「わあ。すごいね。」「上手、上手。」などの声をかけ、満足感を味わえるようにする。

【考察】

大量の落ち葉に興味を示し、投げたり破ったりする子どもや、落ち葉の上でかけっこやはいはいをする子どもなど、それぞれにしたい遊びを見つけ、落ち葉の感触を楽しむことができた。また、個々の活動だけでなく、友達に落ち葉を渡したり、一緒にビニール袋に入れたり、友達との関わりも見られた。自然に触れて遊ぶことで、保育室内ではできない体験を味わうことができる。四季折々の自然に触れる機会を増やし、子どもたちの興味関心が広がるような環境を工夫するとともに、自然との出会いが子どもの心を揺り動かしている瞬間を見逃さないように、保育者が子どもとかわっていくことが重要と考えている。

0歳児 実践事例
観点(生活)

全身を使って遊ぶ (11月)
視点(健康 ~げんきいっぱい~ 運動)

【遊びの経過】

「寝返りをする→座る→はう→歩く」と自ら体を動かせるようになったことを喜び、楽しんでいくうちに、全身を使ってよじ上ったり、くぐったりして遊ぶ姿勢が多く見られるようになってきた。

【ねらい】

思いきり体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・保育者に誘われたり、友だちが遊ぶ姿を見たりする中で、上る、はう、くぐるなど、自ら体を動かすことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★一人一人の発達に合わせて楽しく安全に遊ぶように、段差、空間を用意する。

〇腕、膝、足等を使って段差を上り下りする。

できるかな。

【好奇心】【意欲】



ぼくも行けるかな。【模倣】【判断】

手も足も伸ばして。あとちょっとだ。

【チャレンジ】【多様な動き】

下りられるかなあ。

【チャレンジ】
【思考】



やったあ。上れた。【満足感】



あっちの遊びもやってみよう。
【意欲】【興味・関心】

うれしいなあ。
もう一回やってみよう。
【自信】【達成感】

★環境構成図



- 色々な高さや硬さの台やマットを組み合わせ、自分の力を試しながら、次のステップへ挑戦できるようにしていく。
- 上りきった時には共に喜び、「もっとしてみよう。」と思えるように、保育者も一緒に上り下りを楽しみ、遊びを盛り上げていく。
- つかまることや座って足から下りることなど、分かりやすく知らせたり、手を添えたりして安全に下りられるようにする。

★トンネル内の空間の大きさを変えられるように、布団や牛乳パック製の台を用意しておく。

〇トンネルをくぐる。



でこぼこ、ふわふわ

しているなあ。【探究心】
【興味・関心】

もっと進んでみたいな。【意欲】【好奇心】



もう少しで出られるぞ。
【チャレンジ】【見通し】

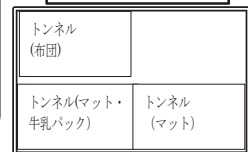
やっと出られた。
【達成感】

こうやって出て
みようかな。

【好奇心】

【動きの工夫】

★環境構成図



- 出口付近からのぞき、「おいで。」と誘うことで、入ってみようと思えるようにしていく。
- くぐれた時には、「やったあ。」と声をかけたり抱きしめたりして喜びを共感し、繰り返してみようという意欲につなげていく。
- 慣れてきたら布団や牛乳パック製の台などをトンネル内に入れ、狭いところをくぐることで、自分の体の動かし方に意識を向けられるようにしていく。

【考察】

トンネルの幅や床面、段差の組み合わせ等に変化を持たせて環境を構成していくと、全身で広さ・高さなどを確かめ、動きを工夫しながら遊ぶ姿が見られるようになった。また、子どもの気持ちに寄り添い、励まし、共に喜んでいくことで、自信や意欲につながってきている。保育者との温かい触れ合いの中で、遊びを通して体を思いきり動かすことの心地よさを味わうことを繰り返し体験させていきたい。また、自分から進んで体を動かそうという意欲が育つように、手をついて体を支える、はうなどの様々な動きが十分に経験できる遊びを大切にしながら、一人一人が楽しくチャレンジしたくなる環境の構成を工夫していきたい。

(2) 1 歳児

1 歳児 実践事例

触って楽しもう

(6 月)

観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

4 月から経験している感触遊びでは、「さわってみたい」という気持ちの一方で、手の汚れやぬるぬるとした感触に抵抗をもつ子どももいたが、少しずつ環境にも慣れ、様々なものに興味をもち「やってみたい」「挑戦してみたい」という積極的な気持ちが芽生え、自分からかかわる姿が見られるようになってきた。

【評価】

- ・わらび粉粘土に自分から触れ、押さえたり、ちぎったりして感触を楽しんだり、形のかわる面白さを感じたりしている。

【ねらい】

わらび粉粘土に興味をもち、自ら触って遊ぶことを楽しむ。



★環境構成図

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★発達段階やアレルギーを考慮し、万が一口に入れても安全なわらび粉、食紅を材料として用意する。
- ★活動場所が広く使えるように室内の遊具等は片付け、思いきり遊べるように、ブルーシートを敷く。
- ★導入後すぐに活動に取り組むことができるよう、わらび粉粘土や容器等を遊べる状態に準備しておく。

〇保育者の話を聞いて、保育者が遊ぶ様子を見る。

先生、楽しそうだな。
【人とかかわり】

どうしよう。
【葛藤】

私も触ってみようかな。
【意欲】



- 子どもたちが興味をもち、やってみたいと思えるように、保育者が楽しそうにしているところを見せ、遊びに誘う。
- 遊びに入るのを嫌がる子どもには、無理強いをせず、保育者がそばに寄り添いながら、一緒にわらび粉粘土の感触を味わい、思いが共有できるような言葉かけをする。
- 直接触れることに抵抗を感じる子どものために、まるめたわらび粉粘土をビニール袋に入れたり、容器に入れて渡したりすることで活動に参加できるようにする。

〇わらび粉粘土に触ってみる。

どんな感じかな。
【興味・関心】 【探究心】

私も触ってみよう。
【チャレンジ】



冷たいよ。【発見】



ちょっとたたいてみよう。
【好奇心】

- 水分量を調節して色々な柔らかさのわらび粉粘土を準備したり、食紅で着色をしたりして興味や関心を持てるように工夫する。
- 保育者も一緒に、遊びを楽しむ中で遊び方を知らせたり、もっと遊びたいという気持ちをもたせたりして楽しさを共有する。

〇わらび粉粘土を容器に入れたり、足で触ったりする。

むにゅむにゅする。
【気づき】



のびるぞ。
【発見】 【夢中】

ちぎってみよう。
【挑戦】

- 遊びに夢中になれるよう、個人個人に合わせたペースで遊びを進めていき、一人一人の感じた気持ちや表現を受け止め、保育者が言葉に表しながら共感していく。

【考察】

保育者や友達がわらび粉粘土で楽しそうに遊ぶ様子に誘われ、自分もやってみたいと好奇心をもって素材にかかわる姿が見られた。また、その感触を味わうことで、様々な発見をし、夢中になって楽しむ姿も見られた。子どもは、初めは感触を試し、物とかかわりを楽しんでいるが、興味を持って繰り返しかかわる中で、次第にその性質などに気づき、子どもなりに使いこなすようになっていく。この年齢の子どもにとって魅力的な素材を探し、触れる機会を設けることで、何事にも興味をもってかかわる子どもを育てていきたい。その際、保育者は、心に響くかかわりや言葉かけを行い、意欲を高める工夫を重ねていきたい。

1 歳児 実践事例

段ボールで遊ぼう

(6 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 運動)

【遊びの経過】

子どもたちは段ボールに興味をもち、車や汽車に見立てたり保育者が段ボールからのぞくと中をくぐろうとしたりして楽しんでた。出し入れ遊びでは、どの穴に入れようか試しながら遊ぶ姿もあった。自分なりに手先や体を色々と動かして遊ぶ姿がみられるようになってきた。

【ねらい】

段ボールを使った好きな遊びを見つけて、全身や手指を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・段ボールに興味を持ち、自分の好きな遊びをする中で、「またぐ」「くぐる」「這う」「積む」「つまむ」「入れる」「押す」「引っ張る」など、全身や手指を使った遊びを繰り返し楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★園児一人一人が満足して遊びに集中できるように段ボールの数を十分に用意しておく。

★色々な大きさや底が抜けた段ボールなどを用意し、遊びが発展していくようにする。

〇段ボール箱に出入りしたり、段ボール箱を積んだりして自由に遊ぶ。

二人で入れたよ。
【満足感】



トンネルだ。
出られるかな。
【動きの工夫】



落ちないように。
【チャレンジ】
【バランス】



- 子どもたちが好きな曲をかけ、楽しい雰囲気作りをする。
- 色々な遊びや動きに興味をわくよう、保育者が遊んでみせたり、一緒に遊びながら楽しさを共有したりする。
- つもり遊びをしながら体を使って遊んでいる姿を認め、イメージをもって動けるよう声をかける。

★いつでも出し入れ遊びができるように、穴を開けた箱を準備しておき、要求や必要に応じて出していく。

★力の加減や向きなどを変えて遊べるように、太さや長さの違うクッション材を準備する。

〇穴を開けた箱で出し入れ遊びをする。



入るかな。
【チャレンジ】

ここに
入れたい。
【意欲】

はしっこをこ
こに合わせて。
そっとだよ。
【力の加減】



- 夢中になっているときは見守り、子どもたちの声や表情を読み取りながら、必要に応じて遊び方や動きのモデルになったり一緒に喜んだりする。
- トラブルになった時には、それぞれの思いを受け止め、必要な言葉を伝えたり、気持ちを代弁したりする。

〇片付けをする。



プッポー。ちょっと重いな。
【力の加減】



ポッポー。一緒に行こう。
【動きを合わせる】

- 「車庫に入れてください。」などと声をかけ、楽しみながら片付けができるようにする。
- 楽しかったという気持ちに共感し、「またやりたい」という意欲につなげる。

【考察】

色々な段ボール箱を準備したことで、自分から好きな遊びを見つけて遊ぶ姿が見られた。保育者がモデルとなることにより、まねをしたり自分なりに見立てたりして、色々な遊びや多様な動きにつながった。

子どものしぐさや表情、言葉から、保育者が一人一人の思いを汲み取り、「できたね。」「楽しいね。」「おもしろいね。」「上手だね。」などと受け止め、言葉にして返していった。それが、「もっと遊びたい」という子どもの意欲にもつながり、何度も繰り返し遊び、多様な動きをすることができたと感じる。

継続して遊ぶことで、徐々に友達遊びにも興味をもち友達のそばで遊んだり動きをまねたりする姿が見られるようになった。今後も、子どもの興味や意欲につながる遊びの展開を工夫していきたい。

1 歳児 実践事例 布で遊ぼう おもしろそうだな (10 月)
 観点 (興味・関心) 視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

布を使って「いないいないばあ」遊びを楽しんできた。
 繰り返し布で遊ぶ中で、広げたり丸めたり投げたりして
 様々に布を変化させて遊ぶ姿がみられるようになった。

【ねらい】

保育者や友達と一緒に、布
 を使った遊びを楽しむ。

【評価】

・布に興味を持ち、布を広げたり布にかくれたりするなど、自分から進んで遊んでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★素材や大きさの違う布やタオルを用意したり、音楽を流したりするなど、遊びたくなるような
 雰囲気をつくる。

○「いないいないばあ」でふれあい遊びを楽しむ。

見てくれたよ。
 うれしいな。

【安心感】
 【満足感】



いないいないばあ。
 先生、見て、見て。

【期待】【信頼】

かくれるよ。
 【楽しさ】

■布の感触を楽しむとともに、友達や保育
 者と顔を見合わせながら遊ぶことを繰り
 返し楽しめるように、子どもたちの表情
 を観察し、共感しながら保育者も一緒に
 楽しむ。

★「ポップコーン遊び」の曲を流し、雰囲気を盛り上げる。

★色、手ざわり、大きさなどの違う布を用意する。

○大きな布に、タオルボールを入れて遊ぶ。
 (ポップコーン遊び)

入るかな。【意欲】



ぼくもやりたい。
 ポンポンしよう。

【意欲】【興味・関心】

わあ、おもしろそう。
 【興味・関心】【期待】

■曲に合わせて、大きな布からタオルボール
 が跳ね出る様子を見たり、跳び出したボー
 ルを拾ってまた入れたりするなど、期待を
 もちながらポップコーン遊びを繰り返し楽
 しめるようにする。

■ボールを入れたり拾ったりする時、子ども
 同士の衝突がないよう配慮する。

ボールがいっぱい。
 またポンポンとぶかな。

【期待】【予想】



拾って入れよう。
 【気づき】【意欲】

■自分で遊びが見つけられない子どもには、
 そばに寄り添い、保育者と一緒に安心して
 遊びに参加できるようにする。

■自分なりの遊び方で楽しんでいる様子を受
 け止めながら「ボールがポンポン跳ぶね。」
 など一人一人に声をかけ、満足感や期待感
 をもたせ、次の意欲へつながるようにする。

【考察】

保育者や友達と一緒に、布から顔を出して見合うことに興味・関心を持ち、「いないいないばあ。」
 の声に合わせて隠れたり出たりすることを楽しんでいた。「ポップコーン遊び」では夢中になってタ
 オールボールを拾い、バスタオルめがけて投げ入れていた。跳ね上がるたくさんのボールを見て、歓声
 を上げて喜び、繰り返し遊ぶ姿が見られた。このことから、子どもが主体的に活動できる場や空間、
 適切な道具、十分に活動できる時間などを整えたり、その時の子どもの姿に合わせて保育を構成して
 いったりすることが大切だと実感した。そして、子どもたちが自分の遊びができる安心感やがんばり
 が認められる満足感等を味わいながら、安心して思いきり遊びを楽しめるようかかわっていきたい。

【遊びの経過】

タオル地の人形を使った見立て遊びを一人一人が楽しむ姿が見られる。また、好きな玩具を段ボールの車に入れて、「いってきます。」とあちらこちらで楽しそうに運ぶ姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

身近にある玩具に興味を持って自分からかわり、いろいろな遊びを楽しむ。

【評価】

- ・好きな玩具を選んで遊んだり、散歩に出かけて自由に歩いたりひもを引っ張ったりすることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★手作り玩具が自由に使えるようにいろいろな玩具を準備しておく。

(トイレットペーパーの芯で作った望遠鏡、タオルの人形、牛乳パックの親子ペンギン、車等)

★個々で遊べる場所と、車で遊ぶことができる広いスペースとを設定しておく。

〇一人一人が好きな遊びを見つけて遊ぶ。

- ・人形のボタンのつけはずし
- ・望遠鏡のぞき
- ・親子のペンギンを使って挨拶遊び 等



お風呂に入れてあげよう。

【興味・関心】

おはよう。
朝だよ。

【期待】

一緒にお散歩をしたいね。

【提案】【期待】

〇好きな玩具を車にのせて、テラスまで散歩に出かける。

よいしょ、よいしょ。車を引っ張るぞ。【意欲】

トンネルをのぞいてみよう。【意欲】



草の間を通り抜けたよ。【満足感】

■子どもが好きな玩具を選び、自分から遊びたいという気持ちをもてるように、楽しい雰囲気の中で会話をしながら保育者も一緒に遊ぶ。

■つぶやきや表情を受け止めたり、一緒に会話を楽しんだりして、子どもたちが安心して遊べるようにする。

■広い場所（テラス）があることに気づけるようにし、車での散歩に期待感をもたせる。

★遊びに変化をもたせるために、段ボールの草やトンネルを設定し、本当に戸外を散歩しているように準備をする。

★スムーズに車が動かせるように車の数や重さに気を付けて準備したり、紐の長さを調節したりしておく。

■十分な時間を確保し、子どもたちが遊びの充実感を味わうことができるようにする。

■車で運んできた玩具を使ってテラスで楽しく遊べるように保育者が一緒になって楽しむ。

■がんばって車を引っ張ったり、どんどん新しい道に挑戦したりしていく姿を認めるとともに、開放感を感じながら思い思いに楽しんでいる姿に寄り添って言葉かけをする。

【考察】

子どもたちは慣れ親しんだ玩具を見つけると、すぐに自分の好きな人形を選んで、布団に寝かせたり車に乗せて遊んだりそれぞれが見立て遊びを十分楽しんでいた。その後、広いテラスへ目を向けるような言葉かけをすると、みんなが興味を示し、好きな玩具を車に乗せてテラスへお出かけしていった。そして、トンネルをくぐったり、段ボールの草の間を通ったりしてのびのびと遊んでいた。子どもが自ら興味を持ち、かかわってみたいと思うような玩具や遊具を準備していくことや、子どもと一緒に遊びを楽しむことなどに努め、子ども同士のやりとりへと発展させた遊びへつなげていきたい。

(3) 2 歳児

2 歳児 実践事例

氷で遊ぼう (7 月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

部屋の壁面飾りに折紙とお花紙を使ってかき氷を作ったり、夏祭りに向けて大きなかき氷に見立てたちょうちんを作ったりする中で、子どもたちは氷や氷を使った飾りに興味をもち始めた。自分たちでもきれいな氷を作りたいという思いから、木の実や野菜を集めて氷を作るようになった。

【ねらい】

自分たちの作った氷に興味をもち、氷の感触を味わいながら遊んだり、気付きや発見を喜んだりする。

【評価】

- ・できあがった氷の固さや冷たさなどの感触を味わいながら遊んでいる。
- ・氷の様子や変化などの気付きや発見を表情や言葉で表現することを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

〇氷の中に入れてたい花や木の実・野菜を集め、氷を作る。



あの色がいいな。

【意欲】



ねえ、どっちの花がいい。【期待】

トマトやゴーヤも入れてみたいな。【意欲】

- 氷作りへの興味・関心が高まるよう、花・野菜などの名前や色について会話を楽しんだり、においをかいでみたりするなど、楽しく氷作りができるようにする。
- 様子を見ながら、花や木の実、野菜などを集めていない子どもに声をかけ、氷の中に入れてたいものを選ぶようにする。

★氷をすくうもの(れんげ・お玉)や氷を入れる器やお皿を準備する。

★全員が氷に触ることができるように、製氷皿やたらいの数、遊ぶ場所や位置に配慮して、場を設定する。

〇できた氷をさわって遊ぶ。

冷たいね。

【喜び】

つるつるしているよ。【発見】



トマトが出てきた。

【驚き】【喜び】

氷が小さくなった。あっ、なくなった。【気付き】

すべっちゃう。持てるかな。【意欲】【集中】

水になっちゃった。【驚き】【発見】

お玉ですくえるかな。【チャレンジ】

- 氷での遊びに期待がもてるように、できあがった氷を見せ、子どもたちと一緒に製氷皿や牛乳パックから出す。
- 子どもたちの様子を見守りながら、一人一人の思いやしぐさを受け止め、共感して言葉にしたり遊びの仲立ちをしたりしていく。
- 氷に触るのに抵抗のある子には1対1でかかわり、保育者と一緒に触ったり、他児の遊ぶ様子を見たりするなど、少しずつ感触遊びに慣れるようにしていく。
- 遊びを見守りながら子どもたちの驚きや気付きに共感し、保育者も一緒に遊びを楽しむことで、氷の感触や状態の変化などについて気付いたことを安心して表現できるようにする。

★子どもの遊びが広がり、もっと遊びたいという意欲が高まるように、大きなたらいやビニールプールなどを子どもの目に触れるところに配置する。

〇できた氷を使って遊ぶ。

【考察】

自分たちで作った氷に興味をもち、自分から触って喜んだり、変化に気付いて驚いたりしていた。また、氷に触ったりすくったり入れ物に入れたりするだけでなく、氷が溶ける様子や中の草花が出てくことに驚き、遊びながら楽しさや驚きなどの自分の気持ちをどんどん言葉で表現していく姿も見られていた。また、子どもたちの様子から、たらいやビニールプールを使った遊びに発展させていった。このことは、子どもが夢中になって遊びを楽しむのに効果的な環境の再構成だったと考える。子どもの願いを読み取り、ねらいの達成に向けて適切な援助(道具の数・大きさ、タイミング等)を行っていくことが大切である。

2歳児 実践事例

観点（ 興味・関心 ）

色水作りをしよう

（ 8月 ）

視点（ 意欲 ～おもしろそうだな～ ）

【遊びの経過】

子どもたちは、砂遊び、水彩絵の具の色水遊び、ボディーパーティンティングなどの遊びを経験する中で、体がぬれることや汚れることに慣れてきた。また、身近な植物に興味を持ち、不思議に思うことを言葉にする様子が見られ始めた。

【ねらい】

花びらや草などを使って色水を作ることを楽しむ。

【評価】

・容器やすりこぎ等を選んで、もむ、たたく、つぶすなどの遊びを、自分のやり方で楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★活動の見通しがもてるように、前もってアサガオやヨモギの色水を作って用意しておく。
- ★子どもが扱いやすい大きさの袋や容器をすぐ使えるように準備しておく。
- ★自分で花びらや草を摘んで、色水作りができるように、花や草のある場所を確認しておく。

○アサガオの花びらや草で色水ができる様子を見て、自分で色水を作る。

赤いの、紫の。
朝顔の花だ。
【気づき】

これ、何かな。
茶色だよ。
【探究心】



大きな葉っぱ
だったよ。
これぐらいの。
【発見】

- 植物から色がにじみ出る場面を見ることが、色水作りに興味・関心をもてるようにする。
- 植物の名前を知らせ、どんな色がにじみ出てきたのか、言葉にしながらいきかけたり、子どもの発想やつぶやきに共感したりする。

★色水作りに必要な物をすぐに使えるように準備しておく。（すりこぎ、ビニール袋等）

○摘み取った花びらや草をビニール袋に入れて袋の上から指でもんだり、すりこぎでつぶしたりする。

もももみ。
【意欲】
【チャレンジ】



汁が出てきた。
【発見】

手についた。
【葛藤】

おもしろいね。
【夢中】【没頭】

つぶれてきたね。【発見】



ミントの
においがする。
【驚き】

- 初めて扱うすりこぎなどの用具には、保育者も手を添えるなど一緒に使っていくことで、安心して活動できるようにしていく。
- 子どもたちがつぶやく言葉に寄り添い、発見や喜びを言葉にしていくことで、友達の遊び方にも目が向くようにしていく。
- 子どもたちが花びらや葉の大きさ、匂いなどの変化や発見を友達に知らせようとする時は、できるだけ見守り、必要な時には仲立ちをして友達に伝えるなど、言葉のやりとりが発展するようにしていく。
- 袋の上から揉んだり、すりこぎを使ったりすることで、草花から色が出てくるおもしろさや発見を受け止め、遊びがより発展するように見守っていく。

【考察】

自分で草花をつぶして色水を作るのは初めての経験だったが、色々な道具を使いながら、集中して遊ぶ姿が見られた。また、揉んだりつぶしたりした後の草花の色や形の変化にも気づき、発見する喜びも味わっていた。この活動のあと、できあがった色水を使って、画用紙に指で絵を描く、ジュース屋さんごっこをするなどの遊びに発展し、遊びを広げていくことができた。今後も遊びの中の子どもたちの興味・関心を保育者が読み取り、子どもたちの思いの実現に向けた活動に発展するよう、環境の構成を工夫したり、再構成したりしていくことが重要である。

2歳児 実践事例

砂遊びをしよう

(8月)

観点 (興味・関心)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

春は砂や玩具を使ったごちそう作りを楽しんできた。中には手が汚れることを嫌がる姿が見られる子どももあり、保育者と一緒に砂に触れるところから始め、徐々に楽しさを感じられるようかかわってきた。夏になり水を取り入れて遊ぶ中で、手や腕、足を使って思いきり砂遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

砂の感触を味わいながら、好きな遊びを楽しむ。

【評価】

・手やスコップを使い、自分のやりたい方法で山やトンネル等を作りながら砂に親しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★思い切り遊べるように、汚れてもよい服に着替えておく。
- ★遊びの展開を見てタイミングよく出せるよう、シャベルや水道ホース等を準備しておく。

〇砂場に入って、砂の感触を味わう。

何をしようかな。
【期待感】

なかなか水が
流れないな。
【疑問】



さあ、
掘るぞ。
【意欲】

- 期待感をもって遊べるように、保育者が手をブルドーザーのように使い、楽しさを言葉や動きで表現しながら砂場に入るようにする。
- ゆっくりと時間をかけ、子どもが自分のやりたい遊びを進められるように見守り、声をかける。

- ★タイミングよく噴水することで興味・関心が高まるよう、山にホースをうめておく。

〇自分のやりたい遊びを楽しむ。

水を流す



水が流れてきた。
【喜び】【驚き】

泥が動い
とる。
【発見】

すごいなあ。
【感動】

- 保育者も一緒になって遊びを楽しむとともに、子どもたちのつぶやきや発見を言葉にして伝えることで、自分もやってみたい、作りたいという気持ちを高めるようにする。
- 手や足の裏の感覚や視覚を通して、いろいろな気付きにつながるように、水の量や流すタイミングに変化をつけていく。
- 山作りでは、「大きな山を作りたい」という子どもたちの願いを受け止め、一緒に遊びを進めることで、様々なものを実現していく喜びを共に味わうようにする。
- トンネル作りでも、力を合わせて活動を進めている姿に励ましの言葉をかけながら、つながった達成感を味わえるようにしていく。

山を作る



大きいね。
【満足感】

トンネルを作る



あっ、
手が出た。
【驚き】【喜び】

つなげよ
【意欲】【見通し】

シャベル山だ。
【見立て】

【考察】

保育者が自ら遊びを楽しんでいる姿を見せたり、水や道具の活用、タイミングを図るなどして、適切な援助や環境の構成を行ったりすることで、子どもたちは、砂場で保育者や友達と一緒に安心してじっくりと活動していた。次第にもっとやってみたいとダイナミックな遊びへの欲求も出てきて、夢中になって砂を掘ったり水を流したりしながら砂遊びを楽しむことができた。このように、子どもの主体性が発揮できるような自然物や時間、場などを保障したり、子どもの気づきに共感したりすることに心がけ、子どもが意欲的に砂などの自然物にかかわるようにしていきたい。

2歳児 実践事例 「はらぺこあおむし」になって遊ぼう (9月)

観点 (興味・関心) 視点 (表現 ～つたえたいな しりたいな～)

【遊びの経過】

友達や保育者との言葉のやりとりを楽しみながら、見立て遊びやつもり遊び、ごっこ遊びを楽しんできた。「はらぺこあおむし」の絵本に親しみ、あおむしの好きな食べ物や、あおむしがちょうちょになることを知り、イメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむようになってきた。

【ねらい】

お話のイメージを膨らませ、友達や保育者と一緒に表現遊びを楽しむ。

【評価】

- 一人一人があおむしになって遊ぶ中で、知っていることやイメージしたことを伝えたり、友達や保育者とのやりとりを楽しんだりしている。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★あおむしの帽子をかぶり、気持ちを盛り上げていく。

★保育室の安全を確認する。

○「はらぺこあおむし」になって遊ぶ。

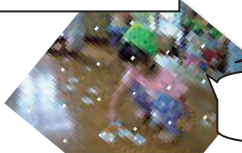
変身



あおむしさんは、ももも動くで。
【表現】【思考】

先生、見て。
【喜び】【自信】

食べ物見つけ



食べ物を探そう。
【意欲】【願い】

見つけたよ。
【楽しさ】【喜び】

かくれんぼ



どこだろうな。
【探究心】【期待】

見つけるぞ。【意欲】



チョコレートだ。食べよう。【喜び】

おいしいな。【表現】

ちょうちょに変身



いっぱい飛ぼう。
【意欲】【表現】

どこに行こうかな。
【想像】【期待感】

- 「あおむしは、どうやって動くのかな。」と問いかけ、一人一人の素直な表現を受け止めるとともに、褒めたり励ましたりしながら、興味をもてるようにする。
- 保育者も一緒にになりきって遊ぶことで、動きや言葉で表現する楽しさを伝え、子どもたちの表現する意欲を高めていく。
- イメージが膨らむよう絵本のお話にそって遊びを進める。

- ★食べ物カードを並べ、わくわくするような環境をつくる。
- ★様子を見て、保育者がチョコレートに変身し、かくれた保育者を探して見つける遊びに展開できるようにしておく。

- 保育者がモデルになり、遊び方を簡潔に分かりやすく伝えた上で、食べ物カード探しをし、遊びへの意欲を高めていく。
- 子どもたちのわくわくする気持ちに寄り添い、一人一人の声に共感的な言葉で応えていくようにする。その際、保育者の言葉が多くならないようにする。
- 食べ物カードを見つけたら、食べる真似をしたりして自分なりに楽しんで表現する姿を受け止め、満足感を引き出すようにする。

- ★イメージがふくらむよう、変身用のちょうちょの羽を準備しておく。

- 「あおむしは、いっぱい食べて大きくなったら何になるのかな。」と問いかけ、子どもたちの「ちょうちょになる。」という言葉を引きかけに、みんなでちょうちょに変身して遊び、表現の変化を楽しめるようにする。
- 一人一人の子どもの発する言葉や思いを受け止め、喜びや満足感を共有していく。

【考察】

絵本に親しむことで、食べ物やあおむしが成長していく様子を知り、イメージを膨らませながら体を動かし、思い思いの表現遊びを楽しむことができた。友達や保育者との言葉のやりとりや動きを楽しんでいる子どもたちの様子を見ながら遊びを展開していくことで、子どもたちは、あおむしになりきって意欲的に遊ぶことができた。また、その姿を褒め、励ましたり認めたりすることで、より開放感をもって自分の気持ちを表出し、遊びを楽しむ姿につながった。これからも子どもの動きを予想して環境の構成、再構成をしていき、自分なりに表現する楽しさを十分に味わうことができるような援助の工夫を考えていきたい。

2歳児 実践事例

ままごと遊びをしよう

(10月)

観点 (人とのかかわり)

視点 (協同性

～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

人形遊びやごちそう作りでは、「行ってきます。」「ただいま。」「〇〇店で買ってきた。」など身近な生活を再現して笑顔で遊ぶ姿が見られる。最近では友達の発した言葉に応答するなど友達同士のやりとりが増えてきた。

【ねらい】

友達や保育者とやりとりをしながら一緒にごっこ遊びを楽しむ。

【評価】

- ・気の合う友達や保育者と一緒に玩具や言葉のやりとりをしながら、ごちそう作りや人形遊びなどの遊びを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★ごちそう作りや人形遊びに取り入れて遊びが展開するよう玩具や用具を見える所に置く。
- ★かかわりがもてるよう遊びのスペースを広く用意し、皿・茶碗・コップ・鍋などの道具は出し入れしやすく配置しておく。

〇好きなコーナーで遊ぶ。

<ごちそう作りコーナー>

何を作ろうかな。【期待】



はやく遊びたいなあ。【意欲】

〇〇ちゃん、一緒に遊ぼう。【人とのかかわり】



塩を入れよう。【好奇心】

できたよ。【自信】



スパゲティーとコーヒーだよ。【満足感】

<人形遊びコーナー>

ただいま。【人とのかかわり】

熱が出たんだって。【思いやり】



薬をあげたらいいが。【提案】

■自分で進んで道具を見つけたり遊び始めたりする子どもを見守りつぶやきに共感していく。

■「また食べたいなあ。」「次は、〇〇をください。」などとやりとりが膨らむような言葉かけをし、友達とかかわって遊ぶうれしさや楽しさを味わえるようにしていく。

■遊びが見つからず友達の遊んでいる様子を見ている子どもには、「ジュースをください。」「何を作ったの。」などの言葉かけでやりとりのきっかけをつくっていく。

■「赤ちゃん、うれしそうだね。」「ちゃんと服を着ているかなあ。」「熱が出ちゃったのかな。」「大丈夫かな。」など遊びのイメージが広がるように言葉かけをしていく。

■優しく人形の世話をする姿を認め、まわりの友達にも言葉や貸し借りなどのやりとりができるように広げていく。

【考察】

ごちそう作りを始める子どもや人形のお世話をする子ども、友だちになりたい役を伝え役割を決めてから遊び始める子どもなど、それぞれがしたいことを見つけて遊んでいたが、言葉や動作によって玩具や道具の貸し借りが成立する場面も増え、遊び方や友達との関わりも広がってきた。また、友達の遊んでいる姿に共感し、真似たり一緒に遊び方を工夫したりする姿も見られた。今後も一人一人の子どもが、どのように友達への興味や関心をもってかかわろうとしているかなどを見取りをしつかりと行い、友達とつながる楽しさを味わえるように遊びの様子を見守りながら、環境構成の工夫や適切な援助を心がけたい。

(4) 3 歳児

3 歳児 実践事例 いっしょに遊ぼう げんきッズ～大きなラディッシュごっこ～ (9 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 食育)

【遊びの経過】

クラスの菜園活動で、毎日水やりや草取りをして大切に育てたラディッシュを収穫し、給食で味わってきた。また、食育絵本から始まった「げんきッズあそび」を通して、元気な体や身近な食べ物への興味が少しずつ見られるようになってきた。

【ねらい】

食べ物が元気な体をつくることを知り、身近な食べ物を進んで食べようとする。

【評価】

- 歌を歌ったり、げんきッズになりきって体を動かしたりして遊ぶことを通して、体を動かす力となるいろいろな食べ物を食べようとする気持ちをもつ。

【○幼児の様子

★環境の構成

■保育者の援助】

★げんきッズのパネルシアターは、見やすいよう高さに配慮する。

○パネルシアターを見ながら、元気な体のもとについて話したり、歌ったりする。



- 知っている食べ物の名前を出し合うことで、友達と共通のイメージをもち、身近な食べ物への興味や次の活動への期待がもてるようにする。
- 子どもの言葉を受けとめながら、やりとりを進め、子どもたちの「元気に大きくなりたい」という気持ちを高める。

○げんきッズに変身して、いろいろな動きをする。

★赤、黄、緑のブレスレットを用意しておく。

スキップしてみよう。【チャレンジ】



- 好きな色のげんきッズのブレスレットを選び、身に付けることで、これから始まる遊びに期待をもち、食べ物への力(栄養)への興味が広がるようにしていく。
- 自分なりの工夫した動きを引き出せるように、ピアノの音の強弱やリズムに変化をもたせる。
- いろいろな動きを楽しんでいる子どもの姿をまわりにも伝え、挑戦してみようとする気持ちを高める。

○げんきッズの力を合わせて、大きなラディッシュを抜く。

★保育者がラディッシュ役になる。

みんなで引っぱってみよう。【共通の目的】



- 友達とつながってひっぱるのが難しい子どもには、保育者が手助けをし、一緒に楽しめるようにする。
- 「どうしたら抜けるかな。」と、子どもたちに問いかけ、子どもの発想を受けとめていく。
- 大きなラディッシュが抜けたのは、元気で力がいっぱいあったからだお知らせ、これからはいろいろな食べ物を進んで食べていこうという意欲につなげていく。

【考察】

パネルシアターを使った歌遊びで、身近な食べ物を栄養素の色別に分類して楽しむ姿が見られた。また、食育絵本で親しんでいる「げんきッズ」のブレスレットを付けたことで、活動への期待が高まり、友達と一緒にいろいろな動きを楽しむことができた。今後も引き続き運動遊びやごっこ遊びの中で「げんきッズあそび」を継続していく。また、調理員とも連携をとりながら、子どもたちが親しみをもっている「カミカミデー」に登場する「カミカミちゃん」を遊びの中に取り入れていく。何でも食べることが元気な体をつくることにつながるという視点で食に関する興味や関心、食事への意欲の向上につなげていきたい。

【遊びの経過】

子どもたちは、園庭の木々の様子を観察し、実が熟すのを楽しみに過ごしたり、夢中になって虫探しを楽しんだりしている。その中で、自然物や虫を見つかったり捕まえたりする喜びや、気付いたり不思議に思ったりしたことを保育者や友だちに知らせに来るようになり、友達を誘って一緒に園庭探検に行ったりする姿が見られるようになってきた。

【ねらい】

自然を散策する中で、気付いたり、感じたりしたことを伝えようとする。

【評価】

- ・自然物や虫などについて、見つけたり、驚いたり、気付いたりしたことを、表情や動き、言葉にして周りの友達や保育者に伝えることを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★事前に下見をして、危険な場所や散策コース、どんぐりポイント等を把握しておく。
- ★子どもたちが思い思いの自然物を持ち帰ることができるように、全員分の袋を用意しておく。

〇公園を散策し、どんぐりや落ち葉を拾ったり、虫を見つかったりする。

ほら、たくさん
拾ったよ。

【喜び】
【達成感】

赤い葉っぱも、
あるんだよ。

【喜び】【気付き】



見て。こんなにいっぱい。

【満足感】



大きいクモが
いたよ。

【発見】

クモと遊び
たいな。

【願い】

- みんなで散策する楽しさや発見した喜びが味わえるように、保育者も子どもたちと一緒に自然物を探す。子どもたちのつぶやきに耳を傾けたりすることで、一人一人の気付きや喜びに共感していく。
- 自然物（どんぐりや葉っぱなど）の大きさ・形・色などの違いにも気づけるように声をかける。
- どんぐりや虫などの名前を一緒に考えたり、周りの友達と見せ合ったりするよう声をかける。

〇見つけた物を見せたり、発見したことや驚きを伝えたりしようとする。

きのこを見つけたよ。【発見】

毒きのこかも。
【気付き】【予想】



何の穴だろう。掘ってみよう
かな。【探究心】【疑問】



お芋のつるみたい。
ひっぱってみよう。
【気付き】【挑戦】

ねえ、来て。
見て、見て。
【誘い】

- 友達が発見した物や疑問に感じていることなどを周りの子どもにも知らせ、面白さや嬉しさを共感したり、一緒に考えたりできるようにする。
- 子ども同士が楽しそうにやり取りする姿を見守る。
- 自然を介した子どもたちの自由な発想や表現を引き出すため、敢えて疑問形で投げ返すようにする。
- 子どもたち一人一人の表現を認め、安心して思いや考えを伝えることができるようにする。

【考察】

散策する中で見つけたり、感じたりしたことを保育者や友だちに言葉で伝えていた。友達の気付きや楽しんでいることにも興味や関心を示し、一緒にその喜びや面白さを共感しようとする姿も見られていた。中には運動会競技の経験から、クモの巣くぐりに興味を示す姿も見られた。このことから、五感を働かせながら身近な自然物とかかわる心を動かす体験が重要であることを改めて感じた。園庭の自然環境や園舎のまわり、近くの公園など地域の豊かな自然と直接触れ合う体験を通して、好奇心や探究心を育てていきたい。また、自然のすばらしさに感動するとともに、子どもの心に共感する心を持った保育者でありたい。

3歳児 実践事例

みんなで船ごっこをしよう (11月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

スポンジや積み木の乗り物を作って遊ぶのが大好きな子どもたちは、次から次へといろいろな乗り物の運転をしたり、その中でご飯を食べたりするなど、楽しい遊びを友達と考えられるようになった。次は船を作って遊ぼうと気持ちが高まっている。

【ねらい】

ごっこ遊びを通して、友達とのやりとりを楽しむ。

【評価】

・船ごっこを通して「出発するから乗って。」「一緒に食べよう。」など、友達との会話を楽しみながら遊んでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★子どもの思いをつなげる活動とするために、作って遊べるコーナーを用意しておく。
(保育室に船ごっこができる空間を設定、魚つりなどができるようにカップや画用紙の準備)

○友達と一緒に船ごっこを始める。



出発します。
【意欲】

ねえ、どこに行くの。
【人とのかかわり】

魚つりしよう。
【共通のイメージ】

つれたね。一緒に食べよう。
【提案】

- 柵やダンボールを使って、大きな船を作り、たくさんの子どもが中に入って遊べるようにする。
- 舵にビニールテープを巻いたり、船に好きな色を塗ったりできる環境を設定し、子どもたちがそれを使って遊びを進めることができるよう声をかける。

○船の中で「お魚パーティー」や「誕生会」をして遊ぶ。



パーティーをして、みんなで食べよう。
【共通の目的】

きょうは、お誕生会です。
【提案】【期待】

もっと魚をとろうよ。
【提案】

- 船の中での遊びが少しずつ広がっていく様子を見守り、友達に自分がこうしたいという思いを伝えている姿を認めていく。
- 船の中で船長をする順番や魚つりをする場所取りなどで、思いがぶつかる時は仲立ちをし、必要な言葉かけをしていく。

★望遠鏡や水中ゴーグルなどを使って遊べるように、道具を見える所に出す。

○海に潜って魚をとって遊ぶ。



たくさん魚が見えたね。
【喜び】

やったあ、いっぱいとれたよ。
【満足感】

ぼくもとれた。いっぱい食べられるよ。
【共感】【喜び】

- 望遠鏡を使って船の中からのぞくだけでなく、水中ゴーグルを使って海に潜って魚をとっている子どもたちの新たな遊び(子どもたちの気付き)を認め、一緒に楽しんでいくよう道具の場所を知らせる。
- 明日も引き続き遊べるように船をそのまま残しておくことを伝え、遊びが続けられる安心感や期待感をもたせるようにする。

【考察】

ごっこ遊びで友達とのやりとりを楽しむ中で言葉を覚える子どももいた。また、船や海の中でのイメージをふくらませながら遊びを楽しんでいた。子どもたちの思いや考えを保育者が見取り、道具などの環境を再構成したことにより、子どもたちが夢中になって遊ぶ姿が見られた。このように、子どもたちが自ら夢中になって自分たちの遊びを深め広げていけるように、保育者が見取った幼児の姿や成長について情報交換できる場を設け、一人一人の遊びを充実させる具体的な援助や環境の構成について全職員の共通理解のもと進めていきたい。

3歳児 実践事例

クリスマスごっこをしよう (12月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ~いっしょにやろうよ~)

【遊びの経過】

日々の遊びの中で、身近な体験からイメージを膨らませてごっこ遊びを楽しむ様子が見られている。12月に入り、クリスマスへの期待も高まっている中、クリスマスの歌を歌ったり、絵本を読んだりしていくことでクリスマスを楽しむ気持ちをもちながら遊ぶことができるようになってきた。

【ねらい】

それぞれの思いを出しながら、友達や保育者とかかわって遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・やりたい遊びや遊びたい場所を見つけて、自分の思いを伝えながら、友達や保育者と一緒に遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★クリスマスごっこの共通のイメージをもち、遊びを広げていけるように、これまでに読み聞かせたクリスマスの絵本の掲示コーナーを作り、いつでも手に取れるようにしておく。
- ★それぞれのコーナーに必要な道具や材料を準備しておく。(空き箱、包装紙、カップ、ドングリなど)

〇自ら選んだコーナーややりたい役でクリスマスごっこを楽しむ。

<サンタのおうちプレゼント作り>

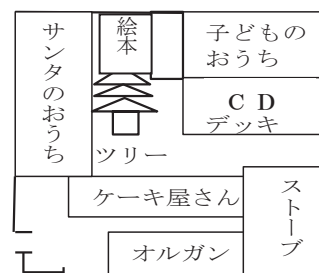
プレゼントができたら、袋に入れて届けよう。
【意欲】【楽しさ】



寝て待っている友達にプレゼントを作るぞ。
【意欲】【提案】

どうやって巻こうかな。
【相談】【思考】

★それぞれのコーナーを設定



<ケーキ屋さん>

ケーキができたら、ケーキ屋さんをしよう。
【見通し】【期待】



ケーキが売り切れたから、もっと作ろう。
【意欲】

この上に、どんぐりを飾ろうよ。
【提案】

<サンタに変身>

〇〇ちゃんたちが寝ているから、一緒にプレゼントを届けよう。
【人とのかかわり】【共通の目的】



プレゼント、喜んでくれるかな。
【期待】

寝ている友達を起こさないように、そっと届けよう。
【思いやり】【提案】

- 保育者が、一人一人の言葉を丁寧に聞き、思いを伝えながら遊ぶことの楽しさを感じられるようにする。
- 子どもたちが役になりきって言葉を交わす様子に共感し、友達とやりとりする楽しさを感じられるように必要に応じて会話に加わる。
- 子どもたちが夢中になって遊んでいる姿を認め、まわりの子どもたちにも紹介していくことで、友達の遊びにも目を向けられるようにしていく。

【考察】

自分の思いを周りの友達に伝えられるような保育者の言葉かけや援助を大切にしていくことで、子どもたちは自分なりにイメージを広げ、夢中になって遊ぶことができた。また、役になりきって友達と言葉を交わす中で、もっとこんなことができそうだという思いをもち、遊びを楽しむ姿が見られた。今後も、子どもたちがイメージを共有しながら自分たちの遊びを広げていけるように、子どもたちの興味・関心がどこにあるのかを確かに見取ることで、主体的な活動につなげる適切な環境について考えていきたい。

(5) 4 歳児

4 歳児 実践事例

いくぞ こじか組消防隊

(6 月)

観点 (生活)

視点 (健康 ～げんきいっぱい～ 運動)

【遊びの経過】

戸外遊びや体を動かす遊びを好み、鬼ごっこをしたり、走り回ったりして遊んでいる。絵本を見たり、消防署を見学したりしたことをきっかけに、消火玉を投げて火を消すなどの消防士ごっこが盛り上がってきている。

【ねらい】

いろいろな動きのある運動遊びを楽しむ。

【評価】

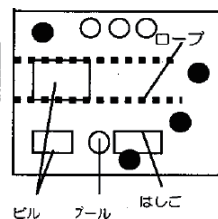
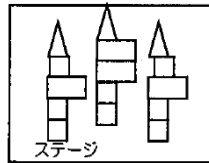
・消防士になりきって、跳ぶ、引っ張る、投げるなどさまざまな動きのある運動遊びを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもと一緒に場を設定し、活動への見通しがもてるようにする。(ダンボールのビル、消火玉、新聞紙のプールなど)
- ★安全に遊ぶように、遊具や職員の配置を行う。



○消防士になって体を動かす。

＜高いところによって火を消そう＞

やったあ、到着だ。【達成感】



よし、行くぞ。【挑戦】



落ちないように。【バランス】【集中】

＜ロープを引っ張って進もう＞

最後までがんばるぞ。【意欲】



ジャンプ。【多様な動き】



火を消すぞ。【意欲】

腕に力を入れて進もう。【力の調整】

＜ダンボールビルに消火玉を投げよう＞

速く投げるといいよ。【力加減】



なかなか倒れない。【葛藤】

■はしごや巧技台に不安を感じている子どもには、子どもの気持ちを確かめながら、手を貸したりアドバイスしたりする。

■「やってみたい」「遊びたい」と思えるように子どもの実態に合わせて遊具の配置を変えたり、保育者がやって見せたりして、いろいろな動きに挑戦できるように工夫する。

■体が曲がったり止まったりしてとまどっている子どもには、保育者が子どもの膝や足の裏に手を添えるなどして、腕の力を使って進む感覚や体の使い方を体感できるようにする。

■子どもの「できた」「楽しかった」という気持ちに共感し、思いきり体を動かした達成感を味わえるようにする。

■投げるコツを尋ねたり、一緒に考えたりすることで、体の向きや足の位置などにも気付けるようにする。

■位置や的を自分で決めて投げることで、ダンボールビルを倒して火を消す達成感を味わえるようにする。

【考察】

どのコーナーでも、消防士になりきって腕の力や腹筋などを使い、跳んだり、引っ張ったり、投げたりする姿が見られた。子どもたちが夢中になって体を動かしたくなる環境を工夫することで、一人一人が、はっきりとした目的（火を消す、プールに着地するなど）に向かって遊ぶことができたと考えられる。今回は一つのコーナーで最後まで遊ぶ子どもが多かったことで、3つのコーナーを行ったり来たりするなど、より主体的にやりたい遊びを選び、十分に全身を動かし、活動意欲を満足させる体験を積み重ねることができるよう用具の配置や空間のとり方など環境の構成を工夫したい。また、子どもの意欲を引き出す保育者の援助の在り方について考えていく必要がある。

4 歳児 実践事例

じまんの駅を作ろう

(6 月)

観点 (興味・関心)

視点 (表現

～つたえたいな しりたいな～)

【遊びの経過】

じゃんけん列車を楽しんだことがきっかけとなり、駅作りの活動が始まった。駅見学などの経験をもとに、自分たちで作った「駅」を使って、駅遊びを楽しみたいという気持ちが高まっている。

【ねらい】

自分なりにイメージしたものを形にして表したり、思いを言葉にしたりして伝えようとする。

【評価】

- ・作りたいものに合わせて空き箱や色紙などの素材を選び、切ったり貼ったりすることを楽しんでいる。
- ・でき上がったもので遊びながら、完成した喜びを言葉にして伝えようとしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもたちのイメージを引き出せるように駅見学の写真や絵、各駅のスペースを用意しておく。
- ★いろいろな素材に触れることができるように、部屋の中央に材料コーナーを作っておく。

〇材料を選んでグループの駅の中にあるものを作る。

何を作ろうか。
【意欲】

これで何が作れるかな。
【想像】【思考】

〇〇を作るには
何がいるかな。
【見通し】



- 用意した材料の特徴や使い方を簡単に知らせることで駅作りへの期待感を膨らませるようにする。
- イメージできずに困っている子どもには、駅見学の写真や自分がかいた絵を見せたり、保育者も一緒に作ったりすることで、自分の思いを形にすることができるようにする。

〇作ったものを駅（ダンボール）に置いたり、のりでつけたりする。

ここに階段が作りたいな。
【意欲】

のりではつかないよ。
【葛藤】

両面テープを使うといいよ。
【提案】



- 作りたいもののイメージに合わせて、材料を選び、切ったり貼ったりできるように、子どもの様子を見ながら声をかけていく。
- その子どもなりのがんばりを認めるとともに、作品を紹介することで、製作への意欲を高めるようにする。
- 参観日におうちの人と一緒に遊ぶことを知らせ、期待感をもたせるようにする。

〇（参観日）できあがった駅で遊ぶ。

- ★できあがった駅で遊べるよう、各駅をつなぐための線路を用意しておく。

見て、ぼくの駅だよ。【満足感】

駅のお店屋さんに行こう。【期待感】

もっとかっこよく改造するぞ。
【探究心】
【試行錯誤】



- 参観日に作品発表の時間を設けることで、自分の製作を振り返り、表現に込めた思いなどについて、おうちの人に伝えることを楽しめるようにする。
- おうちの人と一緒にじゃんけん列車を行い、自分たちの作った駅で遊べることの喜びや友達と遊ぶ一体感を味わえるようにする。

【考察】

頭の中で思い描いているものや見たり聞いたりして感じたことなどの一人一人の思いを今回は「駅」として形に表した。イメージを膨らませ、自分の世界を楽しみながら作った子どももいれば、友達に刺激を受けながら作る楽しさを感じた子どももいる。ペースはそれぞれだが、自分で材料を選んだり、試行錯誤したりしながら作ったことで、より満足感が得られたのではないかなと思う。そして、イメージした駅が形となった喜びが自信となり、参観日の発表では自分の思いを言葉にすることができたと感じる。子どもたちなりの色々な形での表現を見逃さないように認め、次の活動へとつなげていきたい。

4 歳児 実践事例

観点 (興味・関心)

好きな遊びをしよう

(9 月)

視点 (意欲 ～おもしろそうだな～)

【遊びの経過】

夏休みを終えて2学期の始まりの日。新しい友達を迎えての始業式の後、久しぶりに園庭で好きな遊びをすることにした。雨上がりの園庭で、夏休み前まで楽しんだ遊びの続きをしたり、新しい友達を誘ったりしながら遊びを楽しむことになった。

【ねらい】

園庭で自分の選んだ遊びを楽しむ。

【評価】

・自分の選んだ遊びの中で、園庭にある自然物や遊具、道具等を使って遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★雨上がりの環境を生かし、水たまりやぬかるんだ土で遊べるよう手の届く場所に道具を配置する。

〇好きな場所で、好きな遊びを行う。

水をくんでみよう。

【好奇心】【意欲】



〈水たまりで〉

水が気持ちいいな。
【心地よさ】

水を流そう。

【意欲】【目的】



〈といをを使って〉

といを傾けよう。
【提案】

水が動いているよ。
【発見】



〈容器にたまった水を使って〉

ぐるぐる回すぞ。
【意欲】

■子どもの発見や疑問を捉えながら、自分のやりたいことが実現するように援助を行う。

■遊びが広がったり深まったりするように、保育者も一緒に遊んだり、声をかけたりする。
■遊びが見つからない子どもには、楽しく遊んでいる子どもを紹介するなど、やりたいことを決められるようにする。



園庭の環境構成図

穴があいているよ。
【発見】



何の穴かなあ。
【想像】

〈築山の上で〉

掘ってみるぞ。
【意欲】【期待】

落ちないで渡るぞ。
【挑戦】



〈園庭にある材木を並べて〉

もっと並べよう。
【意欲】【目的】

強いなあ。
【あこがれ】

どっちが勝つか、勝負だよ。
【競争】



〈園庭で見つけたオオバコで〉

■思いきり遊んだ満足感を味わったり、次の遊びへの期待感をもったりできるように、一人一人の子どもに声をかける。

【考察】

久しぶりの園での遊びであったが、たくさん子どもたちが自分の遊びを楽しんでいた。中には、じっくりと遊んでいるとは言えない子どもの姿が見られたが、一人一人の子どもに声をかけたり、一緒に遊んだりすることで、遊びを楽しむことができた。

花や虫、水や土など身のまわりの環境に自らかかわることで、新しいことを発見したり遊びを追究したりするなど子どもが自ら考え遊びを進める姿を捉え、保育者は、環境を構成し、援助を行っていく必要がある。ねらいから離れず、かつ子どもの思いに寄り添いながら保育を行うために、保育者間の情報共有の時間を有効に活用し、子どもの遊びの充実をめざしていく。

【遊びの経過】

舟こぎ運動をベースにした舟こぎ鬼ごっこ、舟こぎリレーなどの遊びを楽しんできた。また、ルールを教え合ったり、友達と協力して遊びを進めようとしたりする姿も見られるようになってきた。

【ねらい】

友達や保育者と力いっばい体を動かして遊ぶことを楽しむ。

【評価】

・舟をこぐイメージを共有しながら、腕や足など全身を使って部屋中を動き回って遊ぶことを楽しんでいる。

【〇幼児の様子

★環境の構成

■保育者の援助】

★安全に思いきり体が動かせるよう、遊戯室のスペースを広く取っておく。

〇舟こぎ探検に出かける。

さあ、探検に出発だ。

【意欲】
【期待感】

しっかりオールを漕いでいこう。

【動きの工夫】
【思考】

みんなで声を合わせよう。
「オーエス！」

【提案】【協力】



■保育者も一緒に運動をしながら、海へ舟をこぎ出すイメージが広がるような声かけを行い、本時の活動への期待が膨らむようにする。

■子どもたちの体幹が育つよう、腕や足の正しい使い方を丁寧に知らせる。

■腕や足を力いっばい使って舟漕ぎ運動を行っている姿を認め、まわりの子どもにも知らせることで体を動かして遊ぼうという意欲を高める。

〇舟こぎ鬼ごっこをする。

腕をいっばい振ると、速く進むなあ。

【発見】
【動きの工夫】



足が疲れた。でも、がんばって逃げ切るぞ。

【チャレンジ】

どっちに逃げたらいいかな。【思考】

■子どもの遊びの姿を見守りながら、体力や集中力に応じて無理なく参加できるように援助していく。

■保育者も遊びに加わり、個別に誘いかけをしながら、ルールのある遊びを友達と一緒に楽しめるようにする。

■がんばっている姿や、子どもたちの考えた作戦や動きをその都度言葉にして認め、遊びが深まるようにする。

〇アイデアを出し合いながら、繰り返し遊ぶ。

もう1回しよう。

【意欲】
【満足感】



鬼をよく見ながら後ろ向きで逃げると捕まらなかったよ。

【動きの工夫】

■話したい気持ちを受けとめ、子どもから出たアイデアや意見をうまく引き出し広げていく。

■満足感を味わうとともに、次回の活動への意欲につながるよう、子どもたちが全身を使ってがんばっていた姿や協力していた姿を認めていく。

【考察】

舟こぎ運動に、探検、鬼ごっこ、リレーなどいろいろな遊びの要素を加えることで、毎回興味や意欲をもって遊びを楽しむことができた。また同じ遊びに継続して取り組むことで、遊びを最後まで楽しめる体力も育ってきた。今後も子どもたちの興味・関心のあることを遊びに取り入れ、主体的な活動になるよう心がけるとともに、多様で巧みな体の動きが身につくような活動を計画的に取り組むことが大切だと考える。また、遊びに変化をもたせ、バリエーションのある動きを取り入れた遊びを工夫していきたい。

4 歳児 実践事例 みんなのひろばで遊ぼう～みんなでのぼる、ころがす、わたる～（10 月）

観点（ 興味・関心 ）

視点（ 探究心 ～どうしてかな～ ）

【遊びの経過】

散歩で見つけた秋の自然物を飾った大きな段ボールの中でままごと遊びを楽しむ姿があった。次第に、その段ボールと丸太渡りや竹渡り、木登り等を組み合わせ、起伏に富んだ園庭で、秋の自然物を使ったいろいろな遊びを楽しみたいという気持ちが高まってきた。

【ねらい】

自分なりに試したり工夫したりしながら遊ぶことを楽しむ。

【評価】

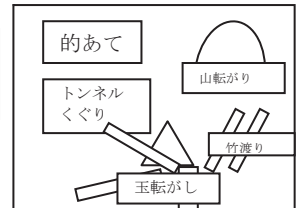
- ・どうしたらまっすぐ転がるか、どうしたら的に当てることができるかなど、繰り返し試して遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★子どもたちと一緒にコーナーの準備をする。（木登り、玉転がし、山転がり・すべり、竹渡り、トンネルくぐり、木の実の的あて）
- ★意欲が高まるように、子どもたちが考えた配置にする。
- ★様々な大きさや形の材料を準備する。（落ち葉、玉、ドングリ、オナモミ）



○各コーナーで遊ぶ

＜トンネルくぐりコーナー＞

- ・トンネルをくぐったり、落ち葉で遊んだりする。

トンネルをくぐってみよう。

【意欲】
【チャレンジ】



上に投げたら面白い。

【気付き】

＜木登り、玉転がしコーナー＞

- ・タイヤを足場にして木に登り、竹に玉を転がす。

すごいスピードで転がるよ。

【発見】

まっすぐ転がすぞ。

【探究心】



大きい玉がよく転がるよ。もっと転がそう。

【気付き】【意欲】

＜木の実の的あてコーナー＞

- ・オナモミ等の実を的に当てる。

どうやったら的に当たるかなあ。

【疑問】

ゆっくり投げるといいよ。

【気付き】



真ん中をねらって投げろぞ。

【チャレンジ】

○片付けをする

■子どものつぶやきや楽しんでいる様子をまわりの子どもたちに知らせ、友達と遊ぶ喜びを感じられるようにする。

■木から落ちたり、友だちとぶつかったりしないよう保育者は連携を取りながら、安全に遊べるようにする。

■遊びが見つからない子どもには、興味がもてるよう保育者が楽しそうに遊んで見せたり友達が遊んでいる姿を知らせたりして誘いかけていく。

■順番が守れなかったり、物の取り合いになったりした時は、お互いの気持ちを受け止めながら、友達の気持ちに気づいていけるように仲立ちをする。

■自分なりに工夫して遊んだり、挑戦したりする姿を認め、まわりに紹介することで、遊びへの意欲を高めるとともに遊びが広がるようにする。

■一緒に片付けをしながら、「次はこうしたい。もっと作りたい。」など子どもたちの思いを受け止め、次回の遊びでは、どのような遊びの発展をするのか考えられるようにする。

【考察】

自分たちが見つけてきた自然物を使ったことで、子どもたちはイメージを膨らませながら意欲的にコーナー作りをし、夢中になって遊ぶことができた。また、繰り返し遊ぶ中で生まれた様々な疑問に対して自分なりに工夫したり、遊びをさらに発展させるための方法を友達同士で相談したりして、活動をより楽しいものにしていった。今後も子どもたちの思いや意欲を引き出しつないだりするための適切な援助を行うとともに、自然を活用した子どもたちにとって魅力的な環境の構成を工夫していきたい。

(6) 5 歳児

5 歳児 実践事例

しずくちゃん 見つけた (7 月)

観点 (興味・関心)

視点 (表現 ~つたえたいな しりたいな~)

【遊びの経過】

生活や遊びの中で言葉の楽しさや美しさにふれさせたいと多くの絵本を紹介してきた。また、共通体験(遊び)をたくさん積み重ねることにより、意見を出し合ったり、会話を楽しんだりする姿が見られるようになった。そこで、大好きなプール遊びの前に絵本の読み聞かせをし、絵本の世界にみんなで浸れるような遊びをすることにした。

【ねらい】

自分の思いを伝え、イメージを膨らませながら、友達と遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- 絵本の中に出てきた言葉を繰り返し話したり、しずくちゃんの真似をしたりして、友達と会話を楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★絵本を自分たちでいつでも見られるよう保育室に置いておく。

★子どもたちが選んだ絵本の中から、「しずくのぼうけん」の読み聞かせをする。

○「しずくのぼうけん」の絵本を見る。



どんな話かな。
うれしいな。【喜び】

次は、〇〇に
行くよ。
【想像】【期待】

しずくちゃんに
会いたいな。
【期待】【願い】

■一人一人が「しずく」に興味をもちながら絵本を見られるよう、子どもの表情を見て、反応を確かめながら話を進めていく。

■話の終わりに「しずくは、今度はどこに行くのかな。」とそれぞれが思いをめぐらせたり、イメージを広げたりできるように読み聞かせを終える。

★絵本の世界を体験できるようなプール遊びを設定する。

○プールの中でぐるぐる回って遊ぶ。

うわあ、洗濯機みたい。
【想像】【感動】

うわあ、流されそうだよ。【発見】



しずくちゃんみたい。
【発見】

しずくちゃん、目がまわらないのかな。
【疑問】

■生活の中で、しずくを意識して、思ったことを伝えようとする姿を丁寧に受け止め、かかわっていく。

■個々の気づきやイメージした言葉をまわりの子どもたちと共感できるように言葉かけをする。

○プールからあがり、シャワーを浴びる。

あっ、しずくちゃん、
見つけた。
【発見】【喜び】

しずくちゃん、タオルで拭いたら、いなくなった。【発見】

雨が降りそうだよ。【気づき】

流れて、どこかに行っちゃった。
【心配】

冒険に行ったのかな。【想像】

しずくちゃんが雲から落ちてくるかも。【想像】【期待】

■保育者も一緒になって、体についたしずく見つけをする。

■絵本「しずくのぼうけん」の内容と同じような場面に気付いて、友達に伝えている姿に共感し、一人一人のイメージが広がっていくようにかかわっていく。

【考察】

絵本を読んで以降、絵本と同じような場面に出会うと、「しずくちゃん、ここにいたよ。」と友達と話をし、これまでは気付かなかったり、感じなかったりしたことにも目を向けている姿が見られるようになった。しずくに思いを寄せ、ぼうけんする様子を自分なりに想像することで、生活や遊びの中での「しずく」との出会いを楽しむ姿につながったと思う。そして、絵本から広がるイメージの世界を友達と共有することで言葉の世界が広がり、会話を楽しむことができたように思う。

今後も絵本を通しての活動を取り入れ、言葉の世界を楽しみながら、イメージを広げ、遊びを楽しめるようにしていきたい。

【遊びの経過】

友達との砂遊びの中で、砂山の大きさや形、固さなどについての気付きや発見を共有し、力を合わせて砂山を変化させて遊ぶ楽しさを感じてきた。そして、砂遊びに水を加えることにより、遊びが広がったり深まったりしておもしろくなることに気付いた子どもたちの間で川作りが始まった。

【ねらい】

砂や水の感触を楽しみながら、友達と工夫して遊ぶことを楽しむ。

【評価】

- ・自分の作りたい物のイメージに向かって自分の考えを出したり友達のアイデアを取り入れたりしながら、いろいろな道具の使い方を工夫して山や川を作ることを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★ナイロン袋、スコップ、水運び用バケツなど十分な数を準備する。

★川作りではいろいろな方法を試すことができるように、といやペットボトル等を準備しておく。

○山や川作りをし、どのようにすれば水が流れるのか考えたり試したりする。



大変、山が崩れる。
【切実感】

スコップでたたいて固くしよう。
【発見】【思考】

片方を高くしたら水が流れやすいよ。
【発見】【共有】

といから水が漏れるよ。どうしよう。
【不安】【工夫】

■子どもが楽しんでいる様子や思いに共感しながら保育者も一緒に楽しみ、遊びを盛り上げる。

■一人一人の発見や工夫を大切に受け止め、周りの友達にも知らせることで、遊びの楽しさが共有できるようにする。

■思うようにいかなかったり、どうしていいかわからなかったりする子どもには、周りの友達の様子を目向けられるような声かけをして、意欲がもてるようにする。

○水がたくさん溜まるよう考えながら池を作る。



どうしたら池にきれいな水が溜まるのかな。
【試行錯誤】

水がもれないように堤防を作ろう。
【試行錯誤】【提案】

ナイロンが動かないように砂で押さえよう。
【工夫】

ナイロンを敷いたらいいかも。
【発見】

★自分たちで発見したり試したりできるように、スコップなどいろいろな用具を準備しておく。

■子どもたちで意見を伝え合いながら遊びを進めることができるように見守り、声をかける。

■気付きを大切に、しっかり認めたり、共感したりして自信につなげる。

○どうしたら水をこぼさずにたくさんくめるか考え、友達と一緒に水を運ぶ。



どうしたらたくさん水が溜まるかな。
【試行錯誤】
【共通の目的】

もっといい方法はないかな。【思考】

■工夫している友達の様子を紹介することで、それぞれが自分の考えを深められるようにする。

■友達と協力し、水を運ぶ姿を認め、一緒に取り組む楽しさや達成感を味わえるようにする。

【考察】

砂や水という素材を使い、驚きや発見の中から考える姿や成功と失敗を重ね試行錯誤する姿が多く見られるようになってきた。また、様々な用具の使い方を工夫し、山や川作りを行うことで友達と協力して作り上げる喜びを感じることができた。まさにそれは、心が動く体験となっていたように思う。更に遊びが深まるよう繰り返し砂遊びができる時間を確保したり、新たな気付きが生まれるような保育者の援助や環境の構成を工夫したりしていきたい。

観点 (人とのかわり)

視点 (協同性 ～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

生活発表会に向けて今まで経験したことやがんばってきたことを劇にしたいという思いが高まった。あいさつや言葉を大切にしてきたので、それを題材にしたいと意見がまとまった。劇の内容や配役をクラスで話し合ったり、セリフや動きなども同じ役の友達と相談して決めたりして進めている。

【ねらい】

自分の思いやアイデアを出したり、友達の意見を聞いたりしながら劇作りを楽しむ。

【評価】

- ・友達と思いやアイデアを出し合い友達の意見を取り入れながら、劇の内容や配役、セリフ、動きなどを決めて劇作りを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

○みんなで決めた劇の内容を確認し、内容や場面に合ったセリフを考える。

どんなあいさつの言葉があるかな。

【提案】

「おはよう」
「こんにちは」
があるよ。

【発見】



他にも気持ちの良い言葉がないかな。

【提案】

「ありがとう」
「ごめんなさい」
もあるよ。

【気づき】

どんな言い方がいいかな。

【提案】

■今までみんなで大切にしてきた気持ちの良いあいさつや言葉を思い出し、その時にどんな気持ちになったかを考えられるように話し合う場を設ける。

■どんな時にどんな言葉を使うかを子どもと考えながら色々な気持ちの言葉を引き出していく。

■自分の生活を振り返ることができるように具体的な場면을提示していく。

★劇で使う宝箱を見せ、宝箱には素敵な言葉をしまおうと知らせ、言葉見つけに期待がもてるようにする。

○自分の考えた言葉を発表する。

机を出す時に手伝ってくれたよ。
これは「ありがとう」だね。

【発見】



転んだ時に助けてくれたよ。
これも「ありがとう」だね。

【イメージの共有】

■子どもたちの見つけた言葉の意味を子どもたちと考え、宝箱に入れるのにふさわしい言葉を決められるようにする。

★泥棒からの手紙を見せ、素敵な言葉の入った宝箱を取り返そうとする気持ちを高める。

○次の展開を考える。

泥棒が素敵な言葉をとっていくという話はどうかな。

【提案】

宝箱がなくなったらどうする。

【疑問】

困ったな。いい考えが出てこないな。

【葛藤】 【試行錯誤】



宝箱を見つけたら、泥棒は返してくれるかなあ。

【疑問】

クイズに答えられたら返してもらえるというのはどうかなあ。

【提案】

じゃあ、みんなでクイズを考えよう。

【協力】 【意欲】

いいねえ。

【共感】

■子どもたちの意見をみんなで決めた劇のストーリーと照らし合わせ、納得して楽しめる言葉や内容を選ぶように確認し合う。

■どんなことをクイズにしたら楽しいか、今まで経験したことの中から考えられるように、色々なヒントを出す。

■クイズのまとめをし、答え方や問題の出し方について一緒に考えていく。

【考察】

クラス目標として意識して取り組んできたことを題材にした劇作りであったため、子どもたちは、自分たちの生活を振り返りながら活動することができた。保育者が適切な働きかけをすることにより、内容・表現・配役などの決定の際にも活発に意見を出し合い、友達の意見を取り入れたことで劇作りを楽しむことにつながったと考える。また、それを発表会という場で大勢の人に見てもらうことで自信につながった。今後も共通の目的をもち、意見を出し合いながら1つの作品を作りあげる楽しさが感じられる遊びを計画的に取り入れていきたい。

【遊びの経過】

様々な園の行事や活動を体験し、次第に自分たちが主体的に活動に参加し、自信をもって意欲的に過ごす姿がみられるようになってきた。また、友達と話し合ったり、協力して活動したりすることも増えてきた。クリスマスが近づき、クリスマス会に期待をもっている子どもも多く、興味や関心をもって飾り付けをしたり、歌を歌ったりしている。

【ねらい】

クラスの友達と意見を出し合い、協力しながらシンボルとなる大きなツリーを作ることを楽しむ。

【評価】

・自分の考えを出したり、友達の意見を取り入れたりしながら、協力してツリー作りを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★自分のイメージしたものを工夫して作ることが楽しめるよう、自然物やリサイクル材など材料を並べておく。
(松ぼっくり、ドングリなど木の実、枝、ビーズ、スパンコール、空きカップ、ボンド、マジック、はさみ等)

○色塗りをしたダンボールをツリーの形に積み重ねる方法を相談する。



でききたね。
【達成感】

そっち、手伝おうか。
【協力】【人とのかかわり】



この大きいのは土台に使おうよ。
【提案】

○飾りを作る。

どれにしようかな。
【興味・関心】【期待】

ここ持っといて。
【人とのかかわり】

いいよ。【協力】

松ぼっくりを使って作ろう。
【提案】

それ、いいな。やってみよう。
【共感】【意欲】

○高い部分にも飾り付けをし、シンボルツリーを完成させる。

みんなに見てもらいたいな。
【達成感】

みんなで作ったから、こんな大きなツリーになったよ。【感動】【満足感】



■ダンボール集めや箱の色ぬりなど、これまでの活動を振り返り、活動への意欲や期待が高まるように声をかける。

■みんなで色を塗ったダンボールがどのような形になるのか友達と相談できる場を設け、意見を出し合えるようにする。

■倒れないツリーを作るために、箱の大きさや高さを変えてバランスを見ながら友達同士で作業を進められるよう言葉をかけたり見守ったりする。

■友達同士でどんな飾りを作るか相談したり、楽しさを共有しながら作ったりする姿を認め、誉めることでまわりにもその姿を広げていく。

■一人一人の材料の選び方や工夫の仕方を紹介して、友達と意見を出し合いながら協力して作ることができるよう働きかける。

■完成を見通しながらツリーができ上がっていく喜びを共有する。

■みんなで協力して一つの高いツリーを作り上げようとする雰囲気を大切にする。

■完成したツリーを囲み、達成感や満足感を共有する時間を設け、今後のクリスマス会に向け、期待や意欲を高めていく。

【考察】

子どもたちは例年、園内でクリスマスの飾り付けをしていた経験があり、シンボルツリーのイメージをもちやすかったと考える。自分のクラスにもツリーを飾りたいという子どもの気持ちに寄り添い、材料となる大きなダンボールをみんなで集めた。このことから、これから始まるツリーづくりに期待をもってクラスで取り組もうという意欲につながることができた。飾り付けも友達に刺激を受けて真似たり、相談したりしながらかわる姿があった。また、実際に大きなツリーができあがり、クラスのシンボルとして年下の子どもたちが見に来てくれることに誇らしさを感じている様子も見られた。その意欲を大切に、今後、年長としてクリスマス会の内容を考えたり、司会をしたりするなど主体的に参加する活動へ展開していきたい。

5歳児 実践事例 さくら組 VS うめ組 新聞玉合戦をしよう (2月)

観点 (人とのかかわり) 視点 (きまり ~たのしいね~)

【遊びの経過】

雪遊びを十分に楽しむ中で、雪合戦を楽しみにしていたが、雪が溶けてしまったため、新聞紙を使って新聞玉合戦をすることになった。各クラスで必要な道具やルールをつくり、新聞玉合戦を楽しむうちに、クラス対抗で対戦しようということになった。

【ねらい】

自分たちでルールを考えて新聞玉合戦を楽しむ。

【評価】

・クラスごとのルールを合わせた新しいルールを考えながら、自分たちで遊びを進めようとしている。

【〇幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

- ★期待感を高めるため、子どもたちの手作り基地などを遊戲室に配置する。
- ★事前の作戦会議を各保育室で行い、活動への意欲や期待感を高めるようにする。

〇新聞玉合戦をする。(→ 両者が「勝ち」)

やったあ、勝ちだ。
【達成感】

ぼくたちも勝ちだ。
【満足感】

両方勝ちなんておかしいよ。
【疑問】

ルールを合わせたらいい。
【提案】
【共通の目的】

■あえてルールの確認をせず、ゲームの終了後に、子どもたち自身が対戦のルールがなかったことに気づき、新しいルールの必要感がもてるようにする。

■各クラスの保育者が勝ち負けの判定をせず、両クラスともに勝ったことを喜んで見せ、子どもたちの気づきを待つ。

〇勝敗を決めるルールを話し合う。

玉を当てたのに座らなかった。
【気づき】

うめ組は当たったら座るよ。
【説明】

(どうしたらいいかなあ。)

王冠をとったら勝ちにするのはどう。
【提案】

それがいいよ。
【共感】

■保育者が子どもたちの考えを分かりやすくホワイトボードにまとめ、話し合いの内容を視覚的に捉えられるようにする。

■それぞれのクラスのルールで対戦していたことに気付かせ、統一した新しいルールを使って遊ぶための話し合いが行えるようにする。

〇話し合って決めたルールで新聞玉合戦をする。

王冠をとるんだよ。
【確認】
【共通の目的】

当たったら座るよ。
【確認】

負けちゃった。次は負け
ないぞ。
【意欲】

作戦を考えよう。
【思考】【工夫】

■みんなで話し合ったルールを守って対戦したことをほめ、遊びの楽しさや他のクラスとの一体感を味わえるようにする

■勝敗へのそれぞれの感情を大切にし、次の活動へ向けて、作戦を工夫したり新しいルールを考えたりするきっかけづくりとなるよう声をかける。

*吹き出しの () 内は、保育者の言葉かけ

【考察】

子どもたちが必要感をもって話し合いを行うとともに、自分たちで遊びを創り上げていくことの楽しさを感じてほしいと願い、あえてルールを確認しないで活動を展開した。子どもたちは、一生懸命話し合いに参加し、自分の考えを伝えようとしていた。新聞玉合戦を楽しみたいという切実な思いが表れていたと感じる。この体験から、その後、次々に遊びを工夫する姿が見られるようになり、子どもがやってみたいと心が動く経験を重ねていくことの大切さを実感した。今後も、子どもにとって魅力的で切実感のある活動と環境づくりに取り組んでいきたいと考える。

(7) 2～5 歳児

3・4・5 歳児 実践事例

裏山で水遊びをしよう (5 月)

観点 (興味・関心)

視点 (探究心 ～どうしてかな～)

【遊びの経過】

水遊びが大好きな子どもたちは、用水路での遊びを楽しんでいる。地域の人の協力で裏山に水が流れる設備ができ上がった。いつもとの違いに気付いた子どもたちは、興味をもって裏山に行き、最初は戸惑っていたが、自分なりの遊びを展開し始めた。

【ねらい】

(3 歳) 身近な自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもって遊びを楽しむ。
(4、5 歳) 身近な自然に興味や関心を持ち遊ぶ中で、新しい環境へのかかわり方や遊び方を工夫して楽しむ。

【評価】

(3 歳) 水の感触を楽しむとともに、水の流れに発見や驚きを感じながら水路での遊びを楽しんでいる。
(4、5 歳) 水路に物を流したり、水の流し方を考えたりして、工夫して遊ぶことを楽しんでいる。

【○幼児の活動 ★環境の構成 ■保育者の援助】

★裏山の水路からビニールの筒を通して園庭に水が流れるようにしておく。

○裏山に行き、水の流れに興味をもって遊び始める。



花を入れてみようや。

【発見】【探究心】

入ったよ。あっ、流れてきた。

【気付き】【満足感】

こんな方法もあるよ。【試行錯誤】

■地域の方々にお世話になってでき上がった遊び場であることを伝え、感謝の気持ちをもてるようにする。
■どのような反応をして遊びに取り組むのかじっくり観察し、子どもの気付きや驚きに共感する。



水を止めよう。
【挑戦】

面白いなあ。
【夢中】
【満足感】

急に水が流れてきたよ。【発見】



■遊びの中で子どもたちが何を必要としているかを見取り、声をかけたり、必要な物を一緒に準備したりする。
■気付きを言葉にする子どもに共感したり、気付きをまわりの子どもへ紹介したり広げたりする。
■保育者も一緒に遊びに参加し、楽しさを分かち合う。

○水の遊びを工夫する。

ここから石を入れたら流れるかな。【探究心】



大丈夫、流れそう。
【予想】

プールにお水が入るよ。
【意欲】【満足感】



お水、ぬるいよ。
【気付き】【遊びの共有】



■楽しいという気持ちが膨らむよう、子どもたちの気持ちに共感する。
■水に対して興味をもち、子どもたちが自分で考えた遊びが十分楽しめるよう、安全に配慮しながら見守る。
■また遊びたいという気持ちを持ち、次回はどんなことをしようかと考えられるような環境にするため、子どものつぶやきや様子を見逃さないようにする。

カエルになったよ。
【表現】【満足感】

楽しいなあ。また、しような。
【満足感】【達成感】

【考察】

子どもの動きに合わせて形を変える水は、子どもたちにとって大変魅力的な遊びの素材であり、子どもたちは様々な発見や気付きを楽しんでいた。遊びの主体として水にかかわり、「ものを流す」「流れを止める」「一気に流す」などの遊びに夢中になり、自分のイメージに向かって思考したり、試行錯誤したりすることができたと考える。今後も、子どもたち自らが自然素材にかかわり、身体や五感を使った経験を通して、自分で考え工夫して遊びこみ、遊びきることができるように地域の自然環境を生かした保育を行っていきたい。

2・3・4・5歳児 実践事例 第4回わくわくデー「作って遊ぼう てるてる坊主」(6月)
 観点 (人とのかかわり) 視点 (協同性 ～いっしょにやろうよ～)

【遊びの経過】

いろいろな人とのかかわる喜びを味わってほしいと、異年齢のグループ活動をしている。ペアを決め、ふれあい遊びや伝承遊びなどを通し、少しずつ声をかけ合って遊ぶ姿が見られるようになってきた。誕生会の縦割りグループ発表のときに使いたいという声をもとに、青グループでは曲のイメージに合わせて、てるてる坊主を製作することになった。

【ねらい】

- (2歳) 異年齢児と一緒に安心して製作することを楽しむ。
- (3歳) 異年齢児と会話しながら製作することを楽しむ。
- (4歳) 友達と一緒に協力して製作することを楽しむ。
- (5歳) 異年齢児に作り方を知らせながら、みんなで製作する楽しさを味わう。

【評価】

- (2歳) 異年齢児の様子を見て、真似ながら一緒に製作することを楽しんでいる。
- (3歳) わからないことを聞いたり、真似たりしながら一緒に活動することを楽しんでいる。
- (4歳) 異年齢児に声をかけながら、協力しててるてる坊主を作ることを楽しんでいる。
- (5歳) 年下の子の様子を見守ったり作り方を知らせたりしながら、てるてる坊主を協力して完成させることを楽しんでいる。

【○幼児の活動

★環境の構成

■保育者の援助】

★てるてる坊主の製作に必要なものを並べておく。

○年長児たちがリードしながらてるてる坊主を製作する。



手伝って。【要求】
【人とのかかわり】

見せて。
ぼくがやってあげるよ。
【意欲】【思いやり】

これはどうやってするの。
【疑問】【思考錯誤】



シールが
はがれないな。
【葛藤】

こうやってするんだよ。
見ててね。【自信】【提案】

友達のをまねして
やってみよう。
【挑戦】【意欲】

すごい。できたぞ。
【達成感】



シールはどうやって
貼ればいいのか。
【疑問】

■年長児が見通しをもって活動をリードすることができるように、ナイロン袋、シール、モールなどを順番に並べておく。

■4月からの固定のペアで座り、安心した気持ちで互いに協力しながら製作に向かえるようにする。

■年中・年少児が作りやすいように年長児が「こうするんだよ。」と声をかけているところや、互いできているかを確認し合っているペアをほめることで、協力しながら製作を進めることができるようにする。

■模様のつけ方などを工夫して作っている様子を認め、「世界にひとつの自分だけのてるてる坊主ができたね。」などとそれぞれのアイデアを友達に伝え、自信につながるようにしていく。

■作ったてるてる坊主を身に付けて遊戯室のステージで踊ってみよう誘い、最後まで一緒に製作しようという意欲につながるようにする。

【考察】

2歳児や3歳児にとっては細かい作業で数多くの工程があるが、5歳児にとっては今までの経験から見通しの立ちやすい活動を設定し、教え合いながら製作できるようにした。ペアを基本にして、教え合いながら進めることにより、完成を一緒に喜ぶ姿が見られた。また、子どもたちは誕生会を成功させたいという共通の目標へ向かう気持ちが高まり、意欲的な活動となった。ペアで一緒に製作を進める中で次第に安心感が生まれ、5歳児には、責任感も芽生えたようである。今後も友達とつながる楽しさや年齢の異なる友達と協力する喜びを感じられる遊びを多く取り入れたい。